

3 年計画《2009-2011》(案)

2009 年 6 月

要 旨

I. ネパール現地事業

1. 生活林プロジェクト

(1) 方針

- A) 持続的・継続的な森林保全・自然環境保全を可能にします。
- B) 地球温暖化の防止策としてとりくみます。
- C) 自然災害を防止し、住民の命を守ります。
- D) 山村に森林資源を供給し、人々の生活を改善します。
- E) 地域を活性化させます。

(2) 計画

苗畑の拡充を終了し苗畑を完成させ、また、継続的な植樹活動のために苗畑を維持、その運営を管理していきます。ダウラギリ地域においてあたらしい苗畑を建設し、植樹をすすめます。森林資源を利用した織物・紙漉事業を着実にすすめます。森林資源を運搬し、また住民の運搬労働を軽減するための Trail (道) を完成させます。植林事業を終了した地域において事業終了後評価を継続しておこなっていきます。また、新規のプロジェクト開始にむけて新プロジェクト候補地域の調査をおこないます。

2. エコ・プロジェクト

本計画は、〔1〕クリーン・ビレッジ化 (ゴミ処理・観光地美化)、〔2〕住民のトレーニング (環境教育)、〔3〕エコツーリズム開発 (環境調和型の観光開発)、という 3 本柱を基軸にしてすすめられ、これらにより、環境保全 (公害防止) とともに、住民の衛生管理・生活改善・自立、地域の活性化を目指していきます。

具体的には、ゴミ箱の設置とゴミ集積場の建設、環境教育 (住民を対象としたトレーニング) の実施、山岳エコロジースクールの発展などにとりくみます。

II. 国内事業

国内事業の活性化がなければすべての活動は止まります。ヒマラヤ保全協会のすべての活動は国内事業を源泉としてなりたっています。したがって、国内事業の活性化こそ 3 年計画の鍵です。すなわち国内事業が停滞すれば、ヒマラヤ保全協会の存続もありえないと考えるべきでしょう。以下 6 点に絞り込みました。

- A) 活動資金を獲得 (財政を再建) します。
- B) 事務所を活性化し、サロン活動を展開します。
- C) 地球市民講座、ネパール家庭料理教室、エコ・ハイキングなどイベントを企画・実施します。
- D) グローバルフェスタなど外部活動へ積極的に参加します。
- E) 山岳エコロジースクール (M E S) の企画改革をします。
- F) 会報「シャングリラ」を充実させます。

B) から F) までの国内事業は、最終的には活動資金の獲得 (財政再建) を実現するための「会員サービス」と言えます。

はじめに

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会は長年にわたり、ネパール西部の山村において、森林保全を中心とした環境保全事業ならびに地域活性化事業を、ヒマラヤ保全協会-ネパールをカウンターパートとして、地域のニーズ調査と問題解決の方法にもとづいて実施してきました。この過程では地域住民からの信頼が大きくなってきました。

このたび、ヒマラヤ保全協会は、2005年度から実施した3ヵ年計画（2005-2007）の成果を踏まえ、理事・公募会員からなる中期計画検討委員会を設置し、あらたな「3ヵ年計画（2009-2011）」を検討・策定しました。

本計画は、ネパール現地事業と国内事業とから成り、ネパール現地事業においては森林保全・環境保全事業に、国内においては活動資金の獲得（財政再建）に重点をおいています。現地事業では、「生活林プロジェクト」と「エコ・プロジェクト」を実施し、地域住民が主体になった自然環境保全を推進していきます。また、カリガンダキ川西岸のダウラギリ地域においてあらたにプロジェクトを開始します。国内事業では、関連組織との共同事業をすすめるなどして事業資金のさらなる獲得をめざし、一方で、各種イベントや広報体制を改善して会員の参画を一層うながします。

I. ネパール現地事業

1. 生活林プロジェクト

（1）方針

A) 持続的・継続的な森林保全・自然環境保全を可能にします

「森林は緑のダム」と言われるように、森林ができると樹木が土地に根をはり、地下水をはぐくみます。ヒマラヤは南アジア全域の水源としても非常に重要であり、森林は、その水資源を涵養するためにはなくてはならないものです。また、雨季の豪雨のとき、樹木の枝葉がクッションとなり雨滴が表土に直接あたらなくなるので、土壌流出をふせぐ効果も生じさせます。水資源の涵養、土壌保全のほかにも、動植物の保護による生物多様性の保全、景観の保護など自然環境を保全するための様々な効果を生み出します。

B) 地球温暖化の防止策としてとりくみます

今日、地球環境問題として地球温暖化がクローズアップされています。地球温暖化は、温室効果ガス（CO₂）の増加によってひきおこされているとされ、その削減が世界的な課題になっています。CO₂削減のためには、その排出量を減らすとともに、それを吸収する森林を増やすことが必要です。このような意味で、森林減少がいちじるしくすすんでいるヒマラヤにおいて植林活動・森林保全をすることは大きな意味があり、ヒマラヤの森林は、ヒマラヤだけのものではなく世界へとつながっています。

C) 自然災害を防止し、住民の命を守ります

ヒマラヤでは、森林が後退したことにより、地滑り・斜面崩壊などの土砂災害が多発し、数多くの村々が危険にさらされています。自然災害をふせぎ、地域住民の命をまもるために、防災対策となる植林をおこないます。

D) 山村に森林資源を供給し、人々の生活を改善します

ヒマラヤで暮らす人々は、森林の中に入り込んだ生活をしており、その暮らしは森林資源に高度に依存しています。自然保護だけを目的にするのであれば保護区（保護林）を増やせばよいのですが、それだけで、ヒマラヤ山村の人々は生活していけなくなってしまうかもしれません。ヒマラヤの植林活動により、薪・家畜飼料・材木・食品・薬草・堆肥・換金作物・水などの「森林資源」を住民に供給し、住民のもっとも重要な生活基盤をつくりだします。

E) 地域を活性化させます

本計画は住民の主体的参加によりおこなうので、自然環境保全に関する地域住民の認識が深まるだけでなく、コミュニティ能力の向上も実現します。また、環境保全・森林利用・村落開発を有機的にむすびつけ、森林保全と森林利用を同時に推進するので、自然環境と地域社会を調和させる効果があります。環境保全と社会開発を両立させてこそ地域社会を持続的に活性化させることができます。

(2) 計画 -ダウラギリ地域への展開-

A) 苗木育成および植樹

- ・ 苗畑の拡充を終了し苗畑を完成させ、また、継続的な植樹活動のために苗畑を維持、その運営を管理していきます〔アンナプルナ地域（ナルチャン・サリジャ地区）〕。



事業地位置図

●：事業地（カリガンダキ川の東側がアンナプルナ地域、西側がダウラギリ地域）。

- ・ ダウラギリ地域においてあたらしい苗畑を建設し、植樹をすすめます〔ドバ村、ベガ村、他〕。
- ・ 苗木生産本数（植樹本数）を増やします。

B) 森林資源を利用した織物・紙漉事業〔サリジャ村〕

- ・ 織物施設・紙漉施設を完成させ、織物・紙の試作品をつくります。
- ・ 村による織物・紙の販売を支援します。
- ・ 関係機関と協議し、織物・紙の販売を促進します。

C) 森林資源運搬・労働軽減事業〔ナルチャン村〕

- ・ 森林資源を運搬し、また住民の運搬労働を軽減するための Trail（道）を完成させます。

D) 評価活動・調査活動

- ・ 植林事業を終了した地域において事業終了後評価を継続しておこなっていきます。具体的には、現状、樹種、森林委員会の機能、管理・維持・利用体制などについて評価します。
- ・ 新規のプロジェクト開始にむけて、ダウラギリ地域において、新プロジェクト候補地の調査をおこないます。

生活林プロジェクト、3カ年計画総括表

地域		項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
アンナプルナ 地域	キバン-ナンギ	事業評価		終了後評価						
	ナルチャン、サリジャ	苗畑拡充	→							
		苗畑完成		→						
		苗畑維持・管理							→	
		植樹&本数	20,000	30,000	30,000	20,000	20,000	10,000	10,000	
		事業評価								終了時評価
ダウラギリ 地域	ドバ、ベガ	事前調査	→							
		苗畑建設		→						
		苗畑拡充			→					
		苗畑完成				→				
		苗畑維持・管理							→	
		事業評価						中間評価	→	
		植樹&本数			10,000	20,000	20,000	30,000	30,000	
	ラウガール河谷 (新事業地)	事前調査		→						
		苗畑建設			→					
		苗畑拡充				→				
		苗畑完成					→			
		苗畑維持・管理						→		
		事業評価							中間評価	→
		植樹&本数				10,000	20,000	30,000	30,000	
植樹本数合計			20,000	30,000	40,000	50,000	60,000	70,000	70,000	
植樹本数累計			730,000	760,000	800,000	850,000	910,000	980,000	1,050,000	

※3カ年計画は2009-2011年度、2012-2014年度は参考データ。

2. エコ・プロジェクト

(1) 方針

本計画は、〔1〕クリーン・ビレッジ化（ゴミ処理・観光地美化）、〔2〕住民のトレーニング（環境教育）、〔3〕エコツーリズム開発（環境調和型の観光開発）、という3本柱を基軸にしてすすめられ、これらにより、環境保全（公害防止）とともに、住民の衛生管理・生活改善・自立、地域の活性化を目指していきます。

3ヵ年計画では、地域の環境保全・観光ルート美化を一層すすめ、環境教育を徹底し、住民の意識をさらに向上させます。ゴミ箱作成・設置、ゴミ集積場の建設や、住民のためのワークショップをより広域的に展開していきます。また、観光資源を発掘・活用し、山岳エコロジースクール（エコツアー）を発展させます。

事業地はトレッキングルート上に位置するため、このような事業が成功すれば、これがモデルとなってネパール各地に効果が波及していきます。「世界最貧国」の一つであるネパールの人々の生活を改善するために、また「観光立国」ネパールにとってこれは非常に重要な意味をもつ事業です。

(2) 計画

A) ゴミ箱の設置とゴミ集積場の建設

- ・ プロジェクト地域内の集落とトレッキングルートにゴミ箱を設置します。
- ・ プロジェクト地域内の各村にゴミ集積場を建設します。
- ・ 有用廃棄物のリサイクル化を促進するための支援をします。

B) 環境教育（住民を対象としたトレーニング）

- ・ ゴミ箱を設置し、ゴミ集積場をつくった村の住民を対象に、ゴミや環境問題に関するトレーニングをおこないます。
- ・ 住民によるクリーン・ビレッジ化を実現します。
- ・ 「住みよい村は行きたい村」となるように、もてなしの心をそだて訪問者にやさしい地域づくりを支援します。

C) 山岳エコロジースクールを発展させる

- ・ カリガンダキ道路の開通を地域の未来をかんがえる上での重要なポイントにし、これをいかしてアンナプルナ地域のエコツーリズムを開発していきます。
- ・ タトパニを拠点にして、ゴミ処理事業とエコツーリズムとをむすびつけて実施します。
- ・ コプラ・ルートのスクールも開催します。
- ・ クリーン&グリーン・ビレッジの実現につながるスクールを開催します。
- ・ 住民の生活向上のために、地産地消や住民の収入向上につながるスクールを開催します。

3. その他のプロジェクト

その他のプロジェクトとして教育支援プロジェクトなどを計画しています。教育支援では、小中学生への奨学金支給、保健衛生教育などをおこないます。

II. 国内事業

(1) 方針

国内事業の活性化がなければすべての活動は止まります。ヒマラヤ保全協会のすべての活動は国内事業を源泉としてなりたっています。したがって、国内事業の活性化こそ3ヵ年計画の鍵です。すなわち国内事業が停滞すれば、ヒマラヤ保全協会の存続もありえないと考えるべきでしょう。

では、国内事業の活性化のためにはどんな事を解決しなければならないのでしょうか。以下6点に絞り込みました。

- A) 活動資金の獲得（財政再建）
- B) 事務所の活性化とサロン活動の展開
- C) 地球市民講座、ネパール家庭料理教室、エコ・ハイキングなど様々なイベントの企画実施
- D) グローバルフェスタなど外部活動への積極参加
- E) 山岳エコロジースクール（M E S）の企画改革
- F) 会報「シャングリラ」の充実

A) 活動資金の獲得（財政再建）

現在、ヒマラヤ保全協会の事業資金は、助成金、寄付金、会費、事業収入です。現在の世界の経済状況を考えると、どうしてもそれほどの伸びは期待できないのですが、助成金、寄付金、会費は我々の努力で伸ばしていかなければならないと思います。これらの支援金について、何とかしていただくということではなく考えたいのです。支援していただくことのメリットを積極的に提案する姿勢が必要です。

一つは、会員のお一人お一人が一年間に一人会員を増やすことです。それだけで会員は倍増し、会費収入が増えます。

二つめは、企業に対する提案です。CRM（コース・リレイテッド・マーケティング）を提案しましょう。このCRMは、企業の売りに貢献するマーケティングの提案です。ヒマラヤ山麓に植林する企業は、消費者から必ず好感を持たれることを提案します。

賛同者（会員・支援者）を地道に増やせる団体にするために、様々な施策を会員の皆様と共に考えていきたいと思っています。

そのためには、会員サービスの充実を欠かすことはできません。B) から F) までの国内事業は、最終的には活動資金の獲得（財政再建）のための「会員サービス」と言えます。

B) 事務所の活性化とサロン活動の展開

現在の代々木の事務所は、いくつかの問題点があります。駅から遠い、狭いわりには家賃が高い、マンションなので閉鎖的な部屋であり治安上も問題があるなどです。

現在不動産価格が暴落していると報道されているので、移転を検討するには良いチャンスではないかと考えられます。条件の良い部屋であれば会員が集まりやすくなり、サロン活動もより活性化すると思われます。

C) 地球市民講座、ネパール家庭料理教室、エコ・ハイキングなど種々なイベントの企画実施

ネパール家庭料理教室は、現在でも多くの人を集めて活発に活動しております。講師の熱意が盛況な状況を創りあげたと言えます。地球市民講座やエコ・ハイキング等のイベントも行われており、今後、広報を一層すすめれば参加者はさらに増えます。ただし、これらのイベントのスタッフがごく限られた理事やボランティアであることに問題があるのではないのでしょうか。

オープンに会員の方々が参加し、企画を作り実施する、そんな状況を作り出すことが必要と思われれます。

D) グローバルフェスタなどの外部活動への積極参加

例年 10 月に行われているグローバルフェスタは活気あるイベントです。昨年は、新たなボランティアの参加もあり、「1000 円で 10 本の植林をしませんか」という呼びかけに、2 日間で 2 万 4 千円も集まるという成果がありました。

グローバルフェスタに限らず、その他にも参加していいイベントがありそうです。どのようなイベントに、何を目的に参加していくかをはっきりさせて活動を広げていきたいと思えます。

E) 山岳エコロジースクール（MES）の企画改革

現在、年に 2～3 回実施しています。近年、エコツアーはさまざまな団体・旅行会社でもおこなわれています。ヒマラヤ保全協会の山岳エコロジースクールは他のエコツアーと「ここが違う！」ということを確認しなければなりません。

他との差別化をし、地域の情報をいかした新たなコンセプトのもとで、山岳エコロジースクールを企画改革します。

F) 会報「シャングリラ」の充実

フルカラーの会報になってからもう一年以上経ちました。現在 16 ページ建てですが、これ以上の増ページは現在の編集スタッフでは難しいと思われれます。

編集への積極的な参加ボランティア、ご自分の主張を他の会員に知らせるといった意味での原稿、表紙を含めた写真の提供など、積極的な会員の皆様の参加をもとめていきます。

以上国内事業の方向性を示しましたが、いずれも簡単に実現できるものではありません。国内事業のプロジェクトは、それぞれワーキンググループをつくって実行策をつくらなければならないと思えます。ここでしめした 6 項目のもとで、新たな活動に入る体制づくりをおこないます。

(2) 計画

A) 活動資金の獲得（財政再建）

- ・ キャンペーン「100 円で 1 本の木が植えられます」等を継続します。
- ・ CRM により、ヒマラヤ保全協会の団体会員・支援者とともに共同事業をおこないます。
- ・ 「1 ピース 1 ツリー・プロジェクト」などを実施します。
- ・ ヒマラヤ保全協会ロゴを貸し出し、使用料収入をえます。

B) 事務所の活性化とサロン活動の展開

- ・ 事務局スタッフ 2 名体制を維持します。
- ・ サロンをこれまで以上に充実させ、会員・支援者が一層あつまりやすい体制をつくります。

C) ネパール家庭料理教室、エコ・ハイキングなど種々なイベントの企画実施

- ・ 地球市民講座、ネパール家庭料理教室、エコ・ハイキング、参画型アプローチ講習会をこれまでに以上に充実させます。
- ・ インターネットをつかった広報活動を拡充します。ウェブサイト、ブログ、メールマガジン、mixi、他。

D) グローバルフェスタなど外部活動への積極参加

- ・ グローバルフェスタに今後も参加し、当協会の活動を広報し、また事業資金をあつめます。
- ・ 国際協力 NGO センターに会員として今後も参加します。
- ・ ネパール NGO ネットワークの会員として今後も参加します。
- ・ NGO ネットワークの強化にとりくみます。

E) 山岳エコロジースクール (M E S)

- ・ ヒマラヤ・トレッキングとネパール山村のホームステイを実施します。
- ・ 地域の人々、自然環境に関する情報をまとめて教材をつくります。
- ・ 参画型アプローチ、事業地フィールドワークなどの現地トレーニングを実施します。
- ・ カリガンダキ道路を利用し、またタトパニをベースにしたスクールを実施します。
- ・ 会員や参加者の参画によりあらたに企画を立案し、参加者企画型のスクールをめざします。

F) 会報「シャングリラ」の充実

- ・ 会報編集委員を増強します。
- ・ あらたな DTP 体制を確立し、内容を一層充実させます。
- ・ ウェブサイト、ブログ、メールマガジン、mixi とも連動させて、よりわかりやすい情報提供をします。

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会 3 カ年計画《2009-2011》(案)

2009 年 6 月 6 日発行

編集・発行：特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-5-7 シグマロイヤルハイツ 403

TEL/FAX:03-5350-8458 E-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp <http://www.ihc-japan.org>